



いよいよ新病棟が開院となります

病院長 藤井 秀樹



平成25年3月に着工しました新病棟建設も、平成27年6月に何の事故もなく無事竣工いたしました。建設中は患者さん、またご家族を含めた多くの皆様に大変ご不便をおかけしましたが、皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。12月に一部の患者さんに新病棟に移っていただきますが、安全に移っていただけるよう、スタッフがシミュレーションを何度も繰り返し施行しており、移送に伴う安全性は十分に確保されています。本格的な稼働は平成28年1月からとなります。以下に新病棟に関する療養環境の整備、手術部門の強化等が解説されていますが、基本的には本院がその理念としている「県民に良質で高度な医療を提供できる県内で唯一の施設」の実現に大きく歩を進めることができたと考えています。今後、さらに新たな病棟建設と中央診療棟の改修など県民の皆様のための病院再整備を継続してまいります。引き続きご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

新病棟フロア案内

H 屋上ヘリポート

北病棟

南病棟

消化器外科 7F 消化器内科

脳神経外科
神経内科
救急 6F 整形外科

泌尿器科
循環器内科
呼吸器外科
救急 5F 心臓血管外科
呼吸器外科
循環器内科
呼吸器内科

産科(院内助産) 4F NICU
GCU
眼科

病理部 3F 材料部

ICU 2F 手術部

救急部 1F 栄養管理部

免震階

療養環境の改善を図りました

副看護部長 望月 恵美

患者ニーズに対応した、患者さんの療養環境の改善として、個室の増床や個室病床のトイレ・シャワー設備の充実、各大部屋にはトイレを分散し、車椅子使用の患者さんが楽に使用できる洗面台の設置が整備されました。ナースステーションは、山梨県の特産品である、ももやぶどうのカラーをモチーフとして、南病棟と北病棟の色分けを行い、病室内はナチュラルカラーを採用し、窓は大きく自然の光を取り入れたことで、落ち着いた気持ちで治療に専念できる環境となりました。



左から4床室・個室・トイレ・病棟エリア

手術部門を強化しました

手術部長 石山 忠彦

本院手術室は新病棟に移転し、下記の通り機能強化を図りました。新たな環境のもと、より高度で安全な手術を提供していきます。

手術室の増室・拡張

現在の9室から13室に手術室を増室し、増加する手術件数への対応を図ります。また、手術室1室あたりの面積を拡張し、術中の安全性をより高め、様々な手術へ対応できる環境を整備しました。

高機能手術室の整備

県民のみなさんから期待される最先端かつ高度な医療を提供するため、MRI手術室、ハイブリッド手術室、内視鏡支援ロボット対応手術室などを整備しました。



拡張された手術室



ハイブリッド手術室

お知らせ

病院経営企画課

病棟移転に伴う 面会の制限について

平成27年12月26日に既存病棟から新病棟への引っ越し(移転)を計画しています。当日は対象となる病棟の入院患者さんも移送させていただくこととなり、ご面会をすることができません。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

救急外来受付窓口について

新病棟運用開始に伴い、夜間・休日における救急外来受付窓口の場所が平成27年12月25日夕方から新病棟1階東側に変更となります。詳細については院内の案内等をご覧ください。

新病棟建物の特色

施設管理課

本建物は免震構造の建物であり、震度6弱のときの室内の状況は、一般の建物では「固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある」に対してこの建物では「卓上の食器はほとんど動くことがない」までに、揺れが軽減されています。

照明は全館LED照明とするとともに、日中の明るい場所は照度センサーと人感センサーを併用し、省エネルギー化を図っています。また、太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの活用も行っていきます。

今後の再整備スケジュールについて

病院再整備スケジュール	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
新病棟Ⅰ	H27.6竣工 ↔							
インフラ工事		H28.6着工 ↔	H30.3竣工					
新病棟Ⅱ				H30.6着工 ↔		H33.3竣工		
新病棟Ⅲ							H33.12着工 ↔	H34.9竣工
既存施設（外来・中診）改修				H30.10着工 ↔				H34.9竣工

副院長（病院再整備担当） 木内 博之

新病棟は平成28年1月より本格稼働しますが、引き続き、病院再整備事業を実施していきます。平成28年度からは、既存施設（外来棟・中央診療棟・特殊診療棟など）の改修工事を行うため、エネルギー供給ラインの変更などのインフラ工事を先行実施します。平成30年度からは新たな病棟建設など、病院機能の向上を図る事業展開を計画しています。

総合診療科外来開設にあたって

副総合診療部長 針井 則一

平成27年7月より、総合診療科外来を担当させていただくことになりました。昨今の医療を取り巻く環境の変化は、専門的診療に特化すべき大学病院においても総合診療部門の開設、総合診療専門医の育成が求められるようになりました。本院の総合診療部は、大学病院のメリットを活かした特色のあるものにしたいと思っています。すなわち、高度な医療を提供している各専門診療科と連携し、①急性期病院の総合診療医、②大学病院の総合診療医、③慢性期医療を目指す総合診療医の教育・研修拠点の一つとして機能し、山梨県の地域医療に貢献したいと考えています。

当面は週3日、月水金の午前中に外来を行います。総合診療部宛の紹介状をお持ちの患者さんだけでなく、特徴的な症状が無く原因臓器が特定されていない患者さんを診療し、適切な専門診療科へ紹介する役割を担います。どこを受診して良いかわからない場合、当外来への受診をご検討ください。状況に応じて診察までの待ち時間が非常長くなる場合があります。受診を希望される場合は、可能な限り事前に本院へお問い合わせください。

対象疾患・病態

- ・ 診断に難渋する不明熱、体重減少、原発不明の悪性腫瘍、複数の臓器にまたがる疾患
- ・ 海外渡航後の発熱など特殊な対応が必要な感染症が疑われる場合

緩和ケア教室のお知らせ

緩和ケアチーム

緩和ケアチームでは毎月2回、下記の日程で、患者さん・ご家族向けに「緩和ケア教室」を開催します。月はじめは薬剤師が痛みどめのお薬のお話を、もう一回は医師が緩和ケア全般に関するお話をさせていただきます。予約不要、受講無料です。ふるってご参加ください。

【平成28年の開催日】

開催時間：13時30分～14時30分

医療用麻薬の使い方 (薬剤師が説明)	緩和ケア全般について (医師と看護師が説明)
1月4日(月)	1月18日(月)
2月1日(月)	2月15日(月)
3月7日(月)	3月28日(月)
4月4日(月)	4月18日(月)
5月9日(月)	5月16日(月)
6月6日(月)	6月20日(月)
7月4日(月)	7月25日(月)
8月1日(月)	8月15日(月)
9月5日(月)	9月26日(月)
10月3日(月)	10月17日(月)
11月7日(月)	11月21日(月)
12月5日(月)	12月19日(月)

山梨大学医学部附属病院
緩和ケアチーム

- 飯嶋 哲也（麻酔科医師）
- 熊倉 康友（麻酔科医師）
- 中嶋 絵美（麻酔科医師）
- 石黒 浩毅（精神科医師）
- 石黒 太造（薬剤師）
- 中嶋 君枝
(緩和ケア専従看護師)

連絡先：

055-273-1111（代表）

緩和ケアチーム専用 PHS：
4338

【開催場所】 病院4階カンファレンスルーム

本院診療科のご紹介

消化器内科

消化器内科は、胃腸や肝臓、胆嚢・胆管、膵臓などの病気の診療を担当しています。消化器では、摂取した食物を消化し、栄養を吸収し、体に必要な成分につくり変えるとともに、有害な成分は無害化して体外へ排出するという生命の営みが行われています。食物などを通じて外界からの影響を受けやすく、生活習慣の変化によって病気の様相も変わってきています。いわゆる「メタボ」といわれるような栄養過多や肥満などが原因にもなっている肝疾患や逆流性食道炎などの疾患が増加しており、また高齢化を背景に、血栓症予防薬による胃腸障害なども見られるようになりました。

一方で、消化器疾患の診断や治療にも大きな進歩がみられており、その一端を以下にご紹介します。

- ・ C型肝炎に著効を示す飲み薬の登場により、より患者さんに適した治療の選択と高い治療効果が得られるようになりました。
- ・ 肝がんの治療では、ラジオ波治療、肝動脈塞栓術に加えて、消化器外科や放射線科の専門医との連携による、外科手術や定位放射線治療などを適切に選択することなどにより、治療成績はさらに向上しています。
- ・ 食道がんや胃がんなどの消化管がんでは、早期のものに対しては、より体への負担の少ない内視鏡を用いた切除を積極的に行っています。
- ・ 消化管や胆道の狭窄（炎症や腫瘍により内腔が狭くなること）に対しては、内視鏡を用いてステントといわれる筒状の構造物を挿入し、狭窄を解除することにより、食物や胆汁の流れを再開させています。
- ・ 胆道がん、膵がんでは、内視鏡の先端にエコーの機械がセットされた超音波内視鏡や病理診断を併用することにより、精度の高い診断が可能となり、より適切な治療へとつなげています。

当科では、今後も患者さんと相談しながら、最適で、安全な医療を提供することを心がけています。消化器疾患についてご質問などあればどうぞご相談下さい。

泌尿器科

泌尿器科は、腎臓、膀胱、前立腺、精巣、副腎などの病気や、女性の膀胱瘤・腹圧性尿失禁、小児泌尿器科疾患などを扱う診療科です。

【対象疾患】

前立腺がん、腎盂・尿管がん、精巣腫瘍、副腎腫瘍、女性骨盤底障害、女性腹圧性尿失禁、男性腹圧性尿失禁（前立腺手術後）、小児泌尿器科疾患、腎不全、男性不妊症など

【手術支援ロボット（ダヴィンチ）】

平成25年からは手術支援ロボット（ダヴィンチ）を用いて、前立腺がんの外科治療として、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術、小切開前立腺全摘除術などの極めて低侵襲な治療を行っています。

また、平成28年からは、腎腫瘍に対しても、ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を実施する予定です。

【治療法】

腹腔鏡を用いた腎尿管・副腎摘除術、腎不全に対する血液透析・腹膜透析・腎移植、前立腺肥大症や過活動膀胱といった排尿障害に対する薬物療法、がんに対する化学療法、腎移植患者さんの免疫抑制療法、人工（血液）透析などを行っています。



ダヴィンチ手術チームとダヴィンチ